

今、取り組んでいます 地域学校協働本部とコミュニティ・スクールに!

子どもたちを地域総がかりで育てる津島市に

今、なぜ取り組むの?

急速なグローバル化、IT化、AI化で予測困難な未来が訪れようとしています。

- 子どもたちの65%が、今はない仕事に就くことになる(ニューヨーク市立大教授)
- 2030年には → 約47%の仕事が自動化されると予測(オックスフォード大准教授)
- 2040年には → 急速な人口減少社会が訪れる(国立社会保障人口問題研究所)
- 2050年には → 愛知県の小・中学校の半分以上がなくなる試算(東洋大教授)

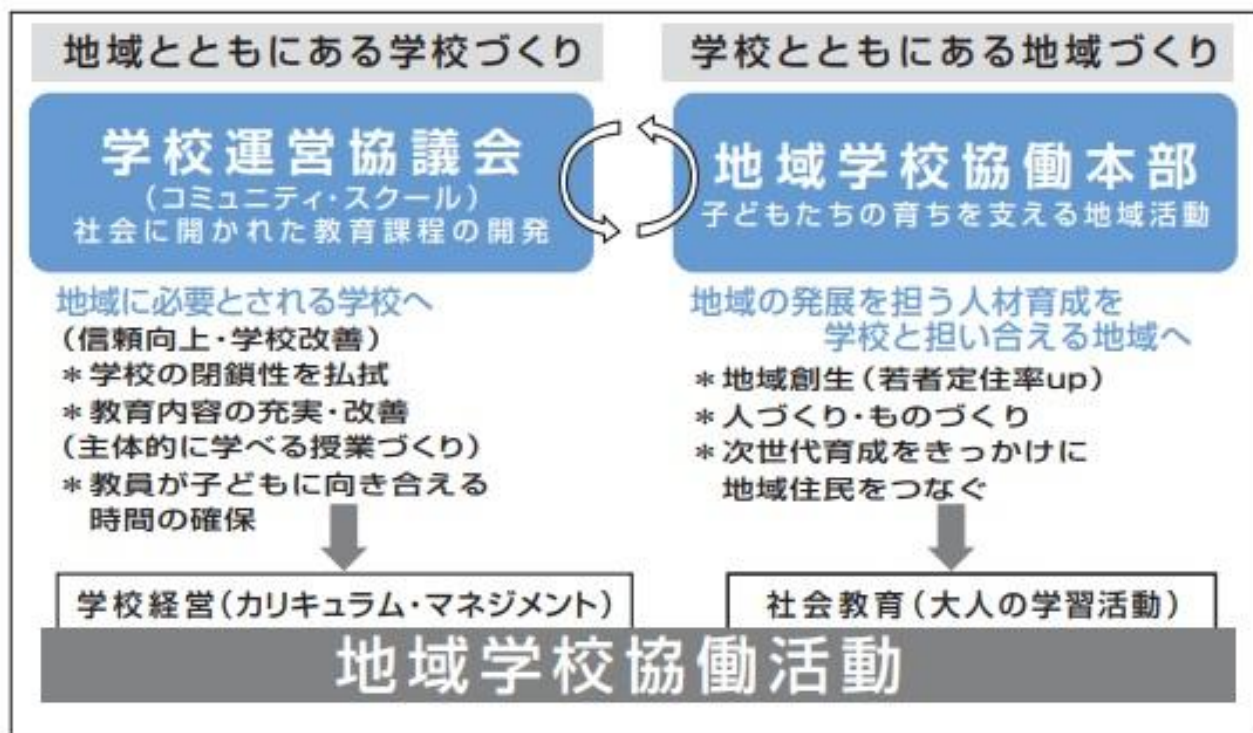
これからの学校は、変化の激しい社会の動向にしっかりと目を向け、教育課程を工夫し、教育活動を展開する必要があります。

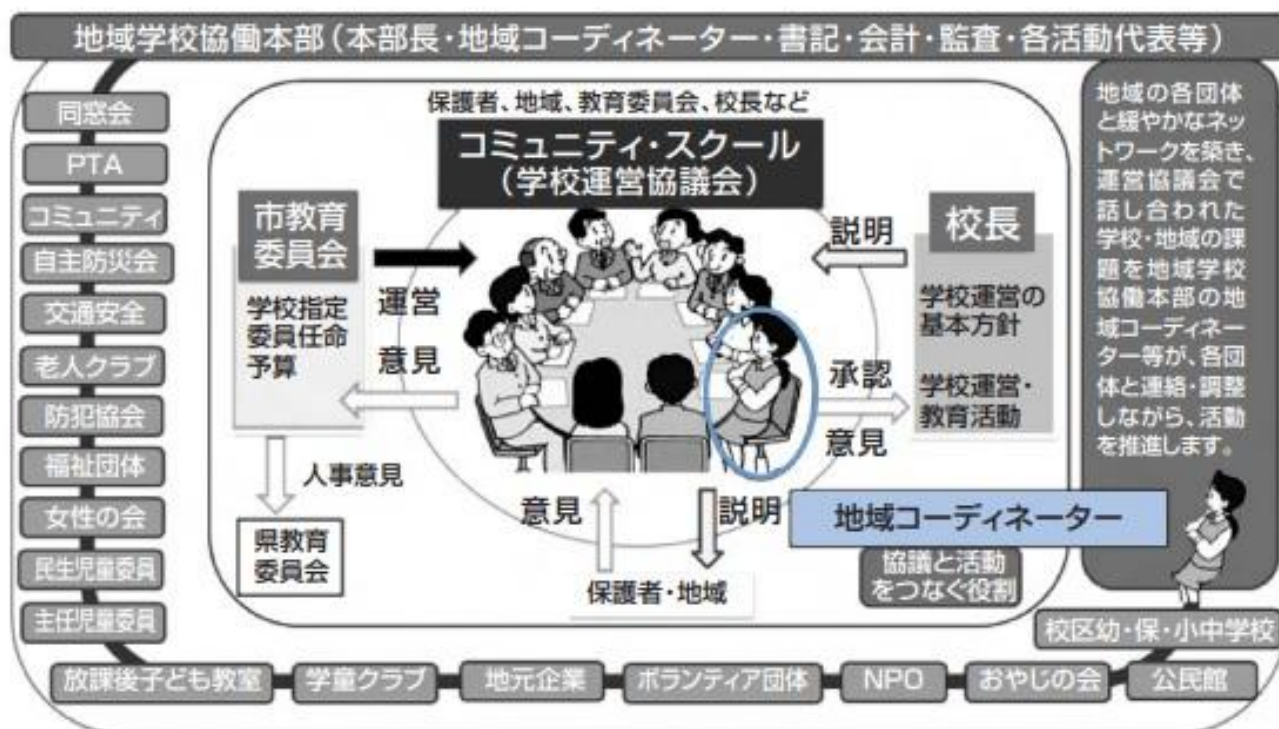


▲武藤教育長

どうするの?

未来に生きる子どもたちのために、今から地域・学校が取り組むべきことは、**地域総がかり**で子どもたちを育てる環境を築くことです。津島市は、平成27年度より「学校支援地域本部」を全小・中学校に設置しました。そこでは、「ネットワーク会議(校区にある諸団体との話し合いの場)」を行い、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備するために、多くの方々から学校への支援をいただいたり、地域で子どもたちを育てる活動を進めていただいたりしてきました。平成30年度より、地域から学校への一方向であった「学校支援地域本部」の「支援」を、双方向の「連携・協働」へと進めるために、学校と地域をつなげる組織「**地域学校協働本部**」へと移行していきます。同時に、現在、神守中学校で進めている「**コミュニティ・スクール(学校運営協議会)**」を2022年までに全校へと拡げていく計画です。





これまでの主な活動は？

学校支援地域本部が中心となって、授業支援、学校行事支援、図書支援、環境支援、見守り支援、夏・冬休みの学習会運営、土曜日の学習支援、中学生の地域行事派遣などを実施していただきました。

今後の活動は？

新学習指導要領が2020年に小学校、2021年に中学校で完全実施されます。「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、地域学校協働活動の仕組みを導入して、地域づくりに子どもたちが参画する活動へと展開していきます。

期待される成果は？

小・中・高・大学生時代にボランティア経験をした人は、大人になると、「される側」から「する側」になって、地域に貢献してくれる割合が高いという調査結果が出ています（国立青少年教育振興機構）。

- 支援をした地域の人の生きがいにつながり、学校が元気になったり、地域が活性化したりします。
- 子どもたちが地域で活動し、地域の人々から感謝されることで、自己肯定感が育めます。
- 地域でお世話になった子どもたちの感謝の想いが、将来、様々な形でふるさとに還元されます。
- 地域の方の一生懸命な姿に肌で触れることで、地域への理解が深まり、郷土愛が育めます。
- 地域の方の支援によって、教員が授業や生徒指導に、より力を注ぐことができます。

協働活動の要であるボランティアさんを募集中です

市内の全小・中学校に、学校と地域をつなぐ「地域コーディネーター」を配置しています。ボランティア登録を希望される場合は、地域コーディネーターまたは、各校の教頭先生へご連絡をお願いします。大学生で授業支援などのボランティアを希望される場合は、右記までご連絡をお願いします。

津島市地域学校協働本部
統括コーディネーター
(教育委員会内)
相村 ☎080-7847-9510